



様々な芸術・文化に  
触れる体験



他者理解・共生社会に  
資する体験

# つながる 広がる 和と輪とわ!

小学校

国立市立国立第三小学校



笑顔と学びの体験活動  
プロジェクト

## 概要

6年生が「世界の人と仲良くなるために大切なこと」を、『日本の伝統文化を知り、互いの文化を伝え合うことが、人と人がつながるきっかけになる』と考えたことから、「折り紙」を軸に日本の伝統文化を学び、外国の方との文化交流会を行った。

育成を目指す  
資質・能力

グローバルに活躍できる人材の育成を目指す

- ・日本の伝統文化を知り、日本人として、個人としての自己の確立を図る
- ・異文化を理解し、尊重する態度や共に生きていくための資質・能力を育む

## 年間指導計画

	4月	5月	6月	7~8月	9月	10月	11月	12月	1~2月	3月
各教科等	授業：図工 日本の伝統文化「折り紙」について知る。	授業：総合 世界の人と「共に生きる」ために大切なことを考える。	体験①折り紙 魅力や簡単な折り方を学ぶ。	授業：総合 外国の方との文化交流会を計画する。	体験②折り紙 富士山、羽ばたく鳥、フレーベルの折り方を学ぶ。	体験③紙切り 人を笑顔にする日本の伝統文化を学ぶ。	「展覧会」 折り紙作品の発表と作品を通じた人との交流	他教科 様々な日本の伝統文化を学ぶ	授業：総合 外国人留学生との異文化交流会	体験の ふりかえり

### 体験①「折り紙」

図画工作科では、日本の伝統文化「折り紙」はみんなが楽しめることや、人と人をつなぐことを学んだ。また、総合的な学習の時間では、世界の人と仲良くなるために大切なことを話し合ったことから、「折り紙」がコミュニケーションを図るきっかけになると考え、「日本折紙協会」から講師を招き、折り紙の魅力を教えていただいた。折り紙の歴史や折り方などを学ぶとともに、講師の超絶技巧作品を鑑賞した。

### 体験②「折り紙」

6年生の総合的な学習の時間で、共に生き互いの文化のよさを理解する機会として、外国の方との文化交流会を実施する。また、11月の展覧会では、人と人をつなぐ「折り紙」で合同作品を発表することから、折り紙作家の方に「誰でも折ることができる」「日本を象徴する」「一緒に楽しめる」折り方を教えていただいた。実際に「富士山メモ」「四季の富士山」等を折る体験をして、文化交流会に向けて折り方を伝えることができるようになった。

### 体験③学校寄席「紙切り・落語」

※その他の伝統文化学習

日本の伝統文化について学習を進める中で、日本の伝統芸能「紙切り」について学んだことから、「日本落語振興協会」の紙切り芸人と落語家を招き、寄席を鑑賞した。紙切りや落語が1枚の紙や道具、身振り・手振り、表情や言葉、その後の体験を通して人を笑顔にできることを学んだ。

また、家庭科・音楽科・図画工作科・国語科など他教科ならではの日本の伝統文化体験も行った。

## 体験①概要

## 体験②概要

## 体験③概要



【学校・教員】

図工：（1年生を迎える会を振り返り）折り紙で人と人がつながることを学び、日本の伝統文化である折り紙を、より詳しく学ぶための工夫をする。

総合：『共に生きる』（前年度学習）を広げ、世界の人と仲良くするためにはどんなことが必要であるか考えさせる。



【児童】

【児童の声】

- ・まずは自分たちが日本の良さを知ることが必要。
- ・日本の文化「折り紙」についてもっと知りたい。
- ・日本の伝統文化の良さを伝えたい。
- ・外国の文化の良さを知りたい。
- ・外国の人を招いて、自分たちの文化を伝えたり、外国の文化を教えてもらったりしてみたい。

6年生の間で折り紙ブームが起こった。休み時間にも折り紙で遊んだり、自分ですごい折り方を披露し合ったりした。

その中で、「折り紙ってすごい!」「一緒につくるとみんなが笑顔で仲良くなれる。」「言語が通じなくても一緒に折ることでコミュニケーションのきっかけになる。」と振り返った。

「3学期に近隣大学の留学生と交流できることになりました。外国の方に日本の伝統文化の良さを伝えるにはどうする?」



「留学生と折り紙を一緒に折って仲良くなりたいな。」  
「折り紙以外の日本の伝統文化も学んで、伝えたい!」  
「富士山を折ってプレゼントしたら日本の良さを伝えられるかな。」

## 日本の伝統文化「折り紙」の魅力

日本折紙協会より折り紙作家に来校いただき、日本の伝統文化である「折り紙」をより深く学ぶ機会を設けた。講演では、折り紙の成り立ちや、生活の中でも役立てられていることを学んだ。特に反響が大きかったのは、医療器具の人工血管として折り紙の折り畳み技法を利用しているというお話だった。

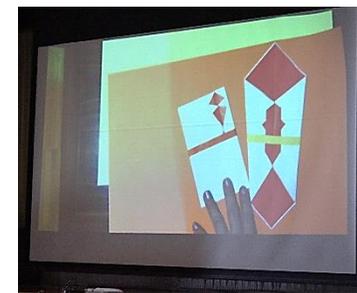
また、作家に実際に折るところを実演していただいた。たった1枚の折り紙が見たこともない折技で美しいアジサイに形作られる様子に驚きの声が上がっていた。

## 「バツタ」折り体験

6年生が発案・計画をした体験活動に全校児童が参加した。そこで、誰でも折ることができ、一緒に楽しく遊べる「バツタ」の折り方を教えていただいた。近くの友達と教え合いながら夢中になってつくっていた。できあがったバツタをピョンピョンと飛ばして、みんなで楽しみながら学ぶことができた。

## 本物に触れる作品鑑賞

体育館に折り紙作家の作品をたくさん展示した。日本の伝統的な折り形の作品から、超絶技巧作品、アニメキャラクター作品などを間近で鑑賞した。本物に触れ、折り紙への興味・関心が高まった。



計画・準備・事前学習



【学校・教員】

総合：大学の留学生との交流を通して、児童が、日本の文化や良さを伝えられるように工夫する。

図工：折り紙作家から学んだことを展覧会で発表し、様々な人とつながる。折り紙作家に再度来校いただき、より詳しく学ぶ。



【児童】

【児童の声】

総合：留学生を喜ばせたい。日本を象徴する形を折り紙で一緒に折ってみたい。留学生に自分たち伝統文化を伝えたり、教えてもらったりしてみたい。

図工：展覧会では、みんなで一緒に大きな作品をつくりたい。

事後・振り返り

折り紙が人を笑顔にしたり、喜ばせたりすることができることや、人と人をつなぐことを改めて実感した。留学生との交流会が具体的になり、「日本の折り紙の良さを伝えたい。」「一緒に折り紙を折って仲良くなりたい。」という思いが強くなった。

また、展覧会に向けて、折り紙での合同作品の製作を全校児童に企画・提案し、6年生は、下級生に折り方やつくり方を教えた。

総合：「日本の伝統文化について調べて、留学生との交流会の準備を進めよう。」

図工：「展覧会の合同作品を製作、展示しよう。」



「折り紙と似ている「紙切り」という日本の伝統芸能があるらしい。「紙切り」について知りたいな。」  
「展覧会ではたくさんの人に折り紙の良さを知ってもらいたいな。」



取組・実践

## 人と人をつなぐ日本の「折り紙」を学ぶ

6年生の総合的な学習の時間で、近隣の大学と連携して留学生と文化交流会を行うため、講師として折り紙作家に再度来校いただき、「誰でも折ることができる」「日本を象徴する」「一緒に楽しめる」折り方を教えていただいた。「富士山メモ」は、メッセージを交換できるもの、「四季の富士山」は、折りめくっていくと春夏秋冬の色彩が表れるもの、「羽ばたく鳥」は、日本と世界の平和を象徴するものとして、留学生にも折り方を伝えられるように、何度も折って覚えました。

## 「つながる・広がる和と輪とわ！」展覧会に向けて

6年生の「下級生や地域の人とも作品を通してつながりたい」という想いを実現するために、展覧会では「折り紙」を全校合同作品にすることを決めた。

講師から「フレーベルの模様折り」を教えていただき、下級生に折り方を教えられるように一生懸命練習した。

## その他教科の体験活動

総合的な学習の時間や図画工作科の折り紙体験以外にも、プロジェクトの関連授業として家庭科での「和菓子づくり」、音楽科で「和楽器」、地域の方との「伝承遊び体験」、国語科の「書写」、社会科などで日本の伝統文化について学びを深めた。





【学校・教員】

総合：紙切りや落語を体験して、より詳しく日本の伝統を学ぶ。

図工：折り紙作家に教えていただいたことを活かして作品をつくり、展覧会で発表する。これまでの学びを「留学生との文化交流会」で発揮させる。



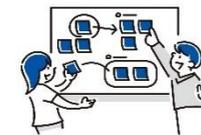
【生徒】

【児童の声】

- ・日本の伝統文化を調べると折り紙に似ている。
- ・紙切りというものを詳しく知りたい。
- ・展覧会では、たくさんの人と折り紙の作品を通して交流したい。
- ・留学生との文化交流会で日本の伝統文化を伝えて外国の方と仲良くなりたい。

自国の伝統文化を知り、伝え合う交流を通して、言葉が通じなくても、楽しいことを一緒に共有することでみんなが笑顔になっていた。児童からは、「世界の人と共に生きるためには、まず相手のことを知ろうとすることが大切だと分かった。」「どうせ言葉が通じないと諦めず、積極的にコミュニケーションをとって、互いに理解し合うことで、戦争がなくなり、助け合える世界になると思う」などの感想があった。

- 日本の伝統文化を知ることで、日本人としての意識が芽生え、楽しさや魅力を伝えたいと思う心情を養うことができた。
- 教員は、「言語や文化が違う人々とどのように関わっていくか」について子供の目線で考えるきっかけになった。
- 日本の伝統文化を学びそれを伝えることは、外国の方と自信をもって関わることのきっかけになることを実感する機会になった。
- 言葉が異なっても自らすすんで関わることで、仲良くなれるという国際理解の体験になった。
- 児童は、異文化への興味が広がり、世界に目を向ける発言が増え、次の単元の「職業調べ」では世界で活躍する企業を調べる児童も多くなった。
- 日本の文化理解が「グローバルにものごとを捉える」という意識につながり、平和や戦争などの領域への考えに波及するようになった。



### 「紙切り」「落語」体験

日本の伝統文化の学習を進め、調べる中で、日本の伝統芸能「紙切り」について知った。そこで、「日本落語振興協会」の紙切り芸人と落語家を招き、寄席を鑑賞と体験をした。1枚の紙をリクエストに応じて、どんな形にも切ってしまう技能に感銘を受けた。また、落語では言葉だけでなく、小道具や身振り・手振り、表情などで、人を笑顔にできることを学んだ。

児童は、折り紙だけでなく、様々な日本の伝統文化を外国の方に知ってもらいたいという思いをもつことができた。

### 展覧会 折り紙の合同作品発表

折り紙を使った作品発表を通して、下級生や地域の人とつながることができた。

### 近隣にある大学の留学生との文化交流会

これまでに体験し、学んできた折り紙を活かし、文化交流会を実施した。互いの文化を紹介し、尊重し合うことができた。留学生とも仲良くなった。

